

# 風水害

## 雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報単語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない				
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っている	走行するにはワイパーが必要	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要 	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる 	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。 	都市部では地下室に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。 

## 大雨の際の危険箇所

**地下室** 大雨のときは危険なので早めに避難しましょう。

①地上が冠水すると、一気に地下の方へ水が流れ込む。 	②浸水すると電灯が消え、エレベータも使えなくなる。 	③流れ込む水圧で、ドアが開きにくくなる。 	④地下では地上の様子がわからない。 
--	--	--	--

### アンダーパス(地下道)

アンダーパスとは、道路や鉄道などが立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を頭の中に入れておきましょう。

普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。避難時の車の使用は避けてください。



## 避難のポイント

台風による大雨や集中豪雨の威力は計りしれません。事前に対策次第で被害を最小限に抑えることができます。もしもの時に備え家庭はもちろん、地域で日頃から対策を取るようにしましょう。被災時の復旧にも地域の協力は不可欠です。みなさんと力を合わせましょう。

外出が危険なときは、家の2階などの少しでも安全な場所へ移動する。(垂直避難) 	避難前に、ガスの元栓やブレーカーを切り、火の始末や戸締りをする。 	いざという時、居場所を知らせるために、笛(ホイッスル)を持っておく。 	非常持出品は必要最低限にとどめ、背負って、両手は自由に動かせるようにする。 
長靴は水が入って歩きにくく危険。裸足も禁物。運動靴をはく。 	道路冠水時は、側溝、水路、マンホール(ふたが外れている可能性がある)、坂道(水深が浅くても水の流れる速い)、ため池などが危険。 	橋を渡らないようにする。 	足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を慎重に歩く。 
先導の人は窪みや溝を確かめるため、長い棒を杖にしながらかく。 	2人以上で避難する。家族はロープでつながって避難する。 	流水や冠水の中で歩ける水深は、膝ぐらい(男性70cm、女性50cm程度)までが目安となる。それ以上なら無理をせず、高い所で救助を待つ。 	増水したら、子どもは浮き袋に乗せ、乳幼児はベビーバスを船のように使う。 
自動車はもちろん自転車での避難も危険なので、必ず歩いて避難する。 	田んぼや畑の見回りは避ける。 	垂れ下がった電線には触らない。 	隣近所に声をかけて助け合いを大切にする。病人や歩行困難な人は背負って避難する。 

## 竜巻・落雷から身を守るために!

近年、竜巻や落雷といった災害が増加傾向にあります。発生する要因を知り、すみやかに避難できるようにしましょう。

### ◆発達した積乱雲に注意

竜巻と落雷は、台風・寒冷前線・低気圧などにより“発達した積乱雲”に伴って発生します。

### 兆候

- ・真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- ・雷の音が聞こえてくる。
- ・急に冷たい風が吹いてくる。
- ・大粒の雨やひょうが降りだす。

### ◇竜巻

日本では、平均して年に20程度の発生が確認されています。一度発生すると家屋の倒壊や車両の転倒、飛来物の衝突などにより短時間で大きな人的・物的被害をもたらすことがあります。

### <避難のポイント>

- ・近くの頑丈な建物に避難する。
- ・飛散物から身を守るような物陰に身を隠し、頭を抱えてうずくまる。
- ・窓や扉、部屋の隅や外壁から離れ、頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る。

### ◇落雷

雷は積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳など場所を選ばず落ちます。また周囲より高いほど落ちやすいという特徴があります。

### <避難のポイント>

- ・雷鳴が聞こえたら、すぐに建物の中や自動車の中に避難する。
- ・避難する建物がない場合は、電柱や木から4m以上離れて、身を低くする。